

A young child with curly hair, wearing an orange hoodie and blue pants, is sitting on a patterned rug in a room. The child is holding a yellow and blue toy. In the background, there is a window with white lace curtains and orange patterned drapes. The room has a wooden cabinet on the left and a patterned rug on the floor. The text "CONCEPT LIFE" is overlaid in the center of the image.

CONCEPT LIFE

真っ白なノートに、絵を描きはじめる。





大好きな世界のど真ん中に、自分自身を置いてみる。



そこから、どんな景色が見えるか？

誰が、どんな人と、どんな目的で、なにをしてるか？





妄想。

わきあがってくるもの。





みんなを喜ばせてくれるものはなにか？

それはいちど見たら忘れられないもの。

身近に感じられるし、「らしさ」もにじみ出ている。

しかも工夫すればするほど、どんどんわかりやすくなっていく。



意思とか熱意、時代性なんて関係ない。

いつもどおりの発想。

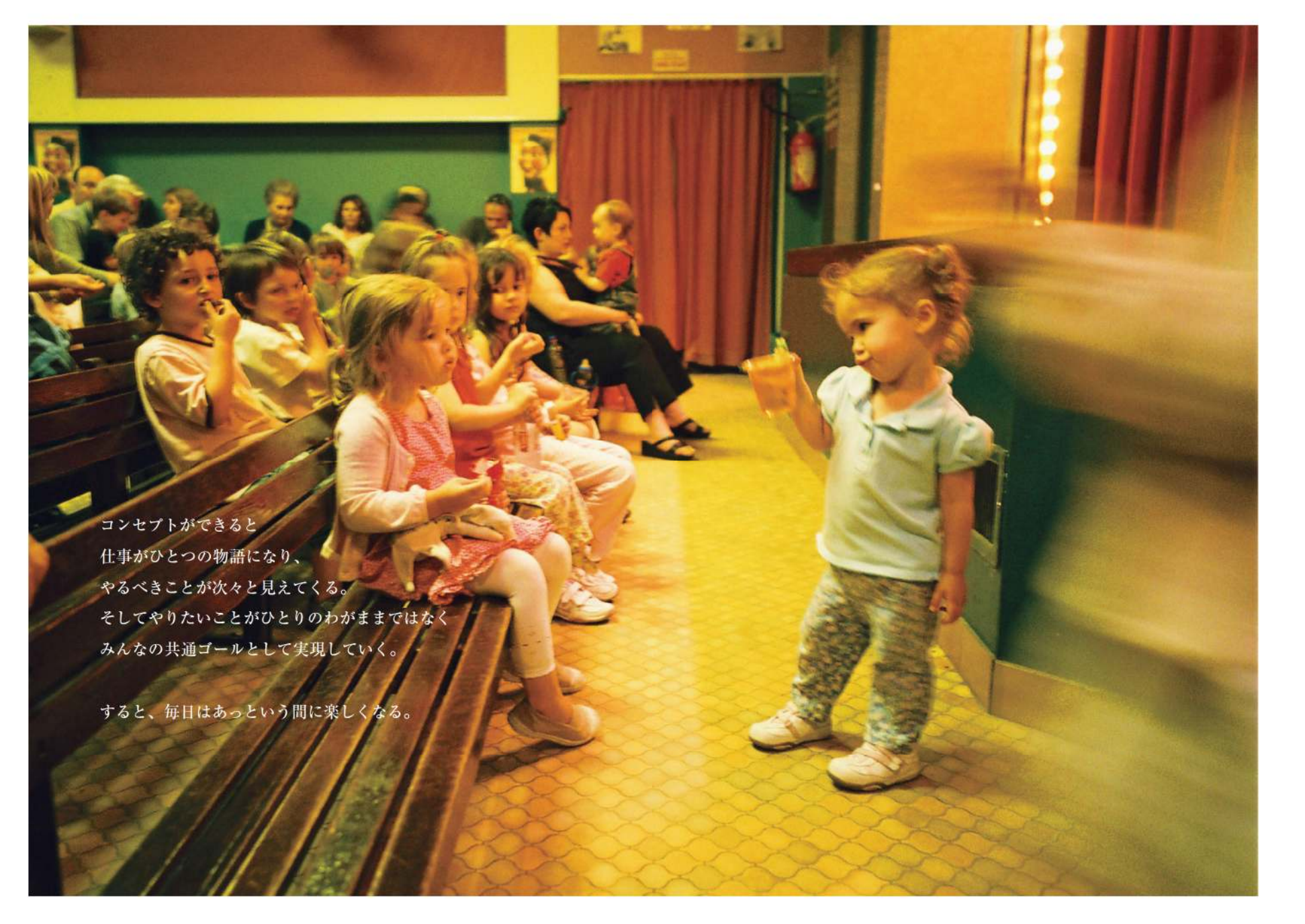
「これよくない?」「かわいくない?」とおなじ。

考えなくても思い出せるし、調べなくても観察すればわかる。



掘り出すものではなく、
すでに陽のあたる道の真ん中にあるもの。

それがコンセプトだ。



コンセプトができると
仕事がひとつの物語になり、
やるべきことが次々と見えてくる。
そしてやりたいことがひとりのわがままではなく
みんなの共通ゴールとして実現していく。

すると、毎日はあっという間になる。



この本にはわたしが学校を卒業して、社会で働きはじめてからコンセプトクリエイターと呼ばれるまでに経験し、感じてきたことを正直に書いたつもりだ。

「誰にでもできるノウハウ」の類はないが、わたしのライフストーリーを知ることでコンセプトとは決して難しいものではないことを理解してもらえらるだろう。

あなたの業種や立場、今置かれている環境に合わせて、わたしの気づきを役立ててほしい。自分の仕事に対して、今よりもっと欲張りになれるはずだ。



もっと大きく、もっと遠くに。
めざすのは月だ。
さればせめて星には届くだろう。

CONCEPT LIFE





Le PLAT du
STYX
Frenchy Style
Burger.

- BRUCE SALER
- STEAK HACHÉ PUR BOUF
- JAMBON FUMÉ
- SAISON ROUGE
- TOMATE
- CRÈME CHAUD
- SALADE
- CÉRÉALES FRAÎCHES

165

BISTROT

LE TERRAZZANO

FOREWORD

本当はそんなに働きたいと思ってなかった。

ただずっと専業主婦っていう人生も退屈そうだったから、いつか結婚したらお洒落なカフェを持つのもいいなと思ってた。

旦那さんはお金持ちという前提。

カフェを開くのは旦那さんで、オーナーなのはわたし。

カフェだけとお花屋さんもあって、毎日かわいい色と良い匂いに包まれている。

スタッフはみんな若くてかわいくて、わたしは「いまなに流行ってんの？」とか聞いちゃうような、気の若いおばさんだ。そうなるためには、まずカフェの作り方から勉強しなきゃな。

わたしの社会人生活はそんな楽観的なプランからはじまった。

GO FOR THE CENTER!

青い空と白い雲の下、
太陽の光がふりそそぐ道のどまん中を、
かわいく、かっこよく歩いていきたい。





CONTENTS

Chapter 1	
Believe in Dreams	034
Chapter 2	
My First Concept in America	044
Chapter 3	
First Step	080
Chapter 4	
First Project	110
Chapter 5	
Starting at Zero Once More	138
Chapter 6	
Going to the Next Stage	166
Chapter 7	
Life is a Concept	188

CHAPTER 1 BELIEVE IN DREAMS



夢を持とう。
やりたいことを仕事にしよう。

って、みんな言うけれど。わたしは一体なにがしたいか？
夢がない。それはずっとない。とって、今から新しく考えるわけにもいかない。まわりの女の子たちはみんな「一流企業に入りたい！」「制服がかわいいところがいい！」「商社か銀行に入りたい！」とか言って騒いでいるけど、そんなのでいいのかと言われれば、そんなので絶対にいいと思うし、そういう会社はわたしも非常に魅力を感じた。

ただわたしは残念なことに、どちらかと言えばクリエイティブな人間だ。ひらめきがすごくて、ものをつくる才能にあふれている。とにかく良いと思ったものを、みんなにすすめることがうまいんだ。たとえばまだちっちゃかった頃、お風呂に入るときいつも妹と二人でCMごっこをしていたんだけど、シャンプーしながらそのときぱっと思いついたコピー、たとえば「このなめらかな潤い」みたいなことを言うと妹はかなり興奮して、「そのシャンプー欲しいよ！」とか叫んでいたから、わたしはやはり広告業界に身を置くべき人材だろうか。